

表6 指導助言を昨年度実施した内容を重点順に3個

〈校長対象〉

	1 位			2 位			3 位		
	小	中	高	小	中	高	小	中	高
職員の共通理解	68.3	67.3	84.4	1.8	11.6		3.5	7.4	3.1
研修の内容	17.5	13.6		26.3	24.2	15.6	4.4	5.3	3.1
研修の方法	1.8	3.2	6.3	22.8	18.9	21.9	14.9	9.5	9.4
研究主題	2.6	4.2	3.1	16.7	13.6	18.8	4.4	7.4	
研究資料		1.1		7.0	7.4	9.4	7.0	7.4	3.1
研修組織	0.9		3.1	2.6	7.4	25.0	5.3	6.3	25.0
個人と共同研究の関連	0.9			7.9	5.3		11.4	6.3	9.4
研究のすすめ方	1.8	7.3		9.6	7.4	3.1	35.9	29.4	34.4
研修リーダーの育成	3.5	1.1		3.5	2.1	3.1	11.4	18.9	9.4
その他	0.9	1.1							
無答	1.8	1.1	3.1	1.8	2.1	3.1	1.8	2.1	3.1

重点を置いたものから順にという調査であったが、記載番号順の記入が多く、1位、2位、3位というように重みづけをすることに疑問があったので、各順位について反応度数をみることにした。

◇小学校

年代別有意差	1位について	$X^2_0=36.28 > X^2_{0.05}$
	2位について	$X^2_0=25.83 < X^2_{0.05}$
	3位について	$X^2_0=52.27 > X^2_{0.05}$
性別有意差	1位について	$X^2_0=12.67 < X^2_{0.05}$
	2位について	$X^2_0=8.79 < X^2_{0.05}$
	3位について	$X^2_0=16.42 < X^2_{0.05}$
職位別有意差	1位について	$X^2_0=59.04 > X^2_{0.05}$
	2位について	$X^2_0=17.50 < X^2_{0.05}$
	3位について	$X^2_0=79.46 > X^2_{0.05}$

職員が指導助言を受けたとする内容は、職員の共通理解、研修内容、研修方法、研究のすすめ方となっているが、20代・30代について無答及びなしと答えたものが多かったことは、「現実には指導助言が無かったのか」「指導助言を受けたかどうかわからなかったのか」「間接的に行われたことで、指導助言がないと思ったのか」「間接的に行われたので受けたかどうかわからないと答えたのか」学校でまとめて提出するという方法をとったので、アンケートの内容を知られることを嫌って無答とし

たのか不明であるが、指導助言は、どんな組織を通して、どんな機会に、どんな方法で行われるのが、最も効果的であるかという問題を表7、表8は提供する。

さらに、無答及び指導助言を受けたことなしとする反応は、表9校長は指導上困難な問題が生じたとき指導助言を与えてくれるか、表10研修において自分の役割は校長に承認されているか、に対する反応の「そう思わない」「無答」の計とはほぼ一致し、校長・教員の信頼関係が校内研修の成立に何より大切であることを示していると考えられる。

表7 指導助言の機会3個

	小	中	高
現職研修会	91.2	76.8	40.6
職員会	54.4	55.8	68.6
学年会	5.3	8.4	9.4
教科部会	4.4	7.4	18.8
教室訪問時	28.1	14.7	
職員打ち合わせ	36.8	33.7	40.6
個人面接	47.4	64.3	59.4
休憩時	17.5	28.4	31.3
その他	0.9	2.1	12.5
無答	14.0	8.4	18.8

表8 指導助言を行うすじ道1個

	小	中	高
だいたい本人	30.7	21.1	21.9
問題によって本人	31.6	40.0	12.5
教頭→本人	17.5	17.7	37.5
現教主任→本人		1.1	
研修リーダー→本人			
教頭→現教主任→本人	7.0	9.5	12.5
教頭→研修リーダー→本人	4.4	5.3	
主任どまり			
委員会	0.9	1.1	3.1
その他	5.3		3.1
無答	2.6	4.2	9.4